

## 令和5年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：( 国語 ) 科目：( 現代文B ) 対象：( 第3 学年A 組～E組 )

科目担当者：( A組～E組： 江黒(印) 澤田(印) )

教科・科目の 指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論説文および随想の読解を通じて、文章中のキーワードに注目して全体の構成を読み取ることができる。</li> <li>・論説文や小説の読解を通じて、場面や人物の設定を的確に整理し、情景描写・心情描写のキーワードを抽出しながら、書き手の意図に気付いたり、人物、情景、心情の描写などをとらえたりしながら、叙述や表現の優れた点を感じ取り、味わうことができる。</li> </ul>
----------------	---

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>&lt;前年度の取り組み&gt;</p> <p>1 漢字検定4級から3級程度の漢字を読み書きを定期考査ごとに出題した。普段の授業内でも小テストを行っている内容で、60%ほどの生徒が6割以上得点できるが、2、3割程度しか得点できない生徒も数%いる。特に、書き取り問題を苦手とする生徒が多い。また、小テストでできた問題が、定期考査ではできないという学力の定着に関して課題が見られた。短文や感想文を書くときに読み手の存在を意識せず、自分の書きたいことだけを書いてしまう生徒も多い。</p>	<p>1 年間指導計画の工夫 既習関連事項、学習目標を明確にし、授業で徹底する内容を担当者間で共有する。</p> <p>2 少人数授業の充実 個別に指導する場面を多く設け、個々の能力に応じた指導ができるように心がける。また、担当者間の連絡調整を密に行い、進度や内容に大差がないようにする。</p> <p>3 小テストの実施 関心の低い生徒や低学力の生徒の意欲を喚起するため、基礎的な小テストを頻繁に行い、自信をもたせる。</p>	<p>教科会において、下記の指導方針を確認</p> <p>1 夏休み課題の実施 一般常識的な内容や、既習事項の基礎から発展までの内容の問題を課す。</p> <p>2 放課後の勉強会の実施 個別の質問対応や定期考査に向けた学習指導を行う。</p> <p>3 考査における統一問題の実施 全生徒に定着させたい事項を明確にするとともに、定着度の確認を統一問題によって行う。</p> <p>4 漢字検定の実施 学習習慣の定着、漢字学習への意欲喚起を図るため、年3回の漢字検定を校内で実施し、事前の学習会を放課後に行う。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			